

3-3 第3回ワークショップ –グループワーク1日目–

(1) 開催概要

- ◆開催日時：平成28年 8月20日（土） 午後1時30分～4時30分
- ◆開催場所：豊島区役所本庁舎5階 507～510会議室
- ◆参加人数：42名（豊島区側：33名、秩父市側9名）
- ◆次第：
 1. 開会挨拶、ワークショップの進め方の説明
 2. グループごとにメンバーの自己紹介
 3. グループワーク テーマ①
 4. グループごとにテーマ①のまとめ発表
 5. グループワーク テーマ②
 6. グループごとにテーマ②のまとめ発表
 7. 講評
 8. 閉会挨拶

(2) グループワークの内容

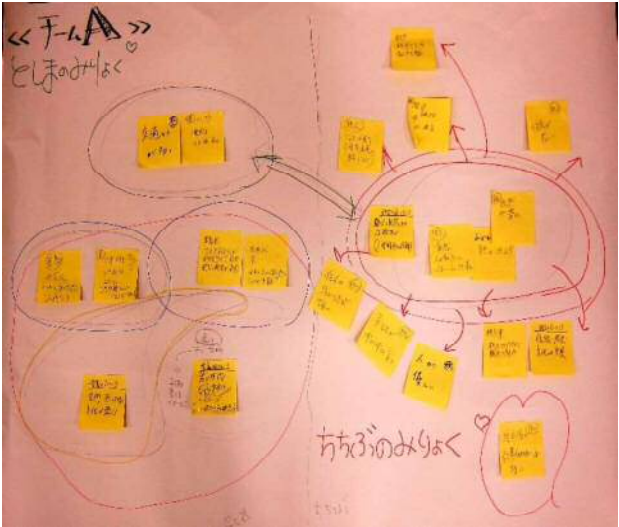
テーマ①：豊島区と秩父市のお互いのまちの魅力を語ろう！

前回の秩父市見学ツアーを踏まえ、参加者の皆さんが感じている「豊島区・秩父市の魅力」は何か、グループごとに、意見交換をしていただきました。

- ◆ポストイットにまちの魅力を書き、模造紙に貼っていただきました。



A チーム 秩父市と豊島区の魅力



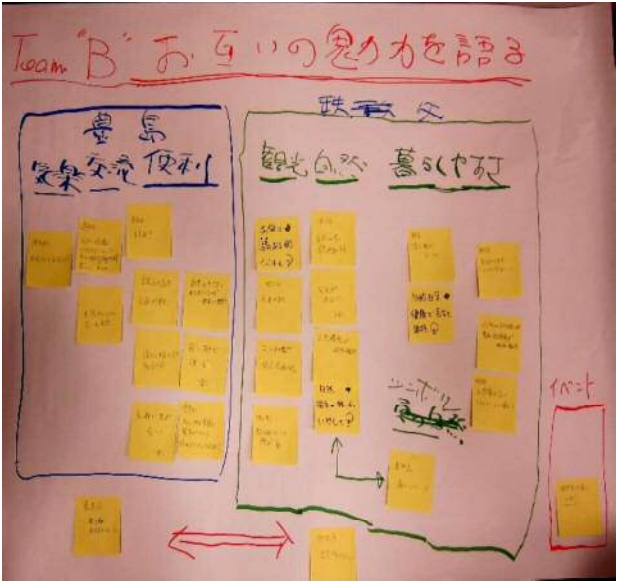
秩父市の魅力

- ・自然や緑が豊か。
- ・素晴らしい歴史と伝統がある
- ・観光資源が豊かである。
- ・地域の人々が優しく、おおらかである。
- ・仕事がたくさんある。

豊島区の魅力

- ・F1層の女性に対する取り組み。
- ・ダイバーシティの取り組み。
- ・地域の地域コミュニティが良い。
- ・世代間交流も広い。
- ・文化・芸術を育てる基盤がある。
- ・交通などのインフラが整っている。

B チーム 秩父市と豊島区の魅力



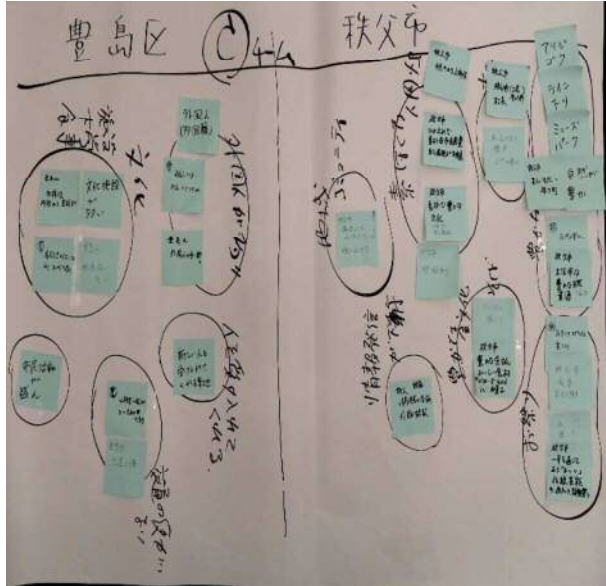
秩父市の魅力

- ・自然環境が豊か。
- ・祭りをはじめ、観光、文化、歴史がある。
- ・食べ物がおいしい。
- ・生活がしやすく、ストレスが少ない。
- ・「武甲山」等、市にとってのシンボルとなるものがある。

豊島区の魅力

- ・都会すぎず、田舎すぎず、バランスのとれたまちであるところ。
- ・交通が便利。
- ・池袋をはじめ、様々な地域から人が訪れるため交流が盛んであるところ。
- ・文化・スポーツが盛んであるところ。

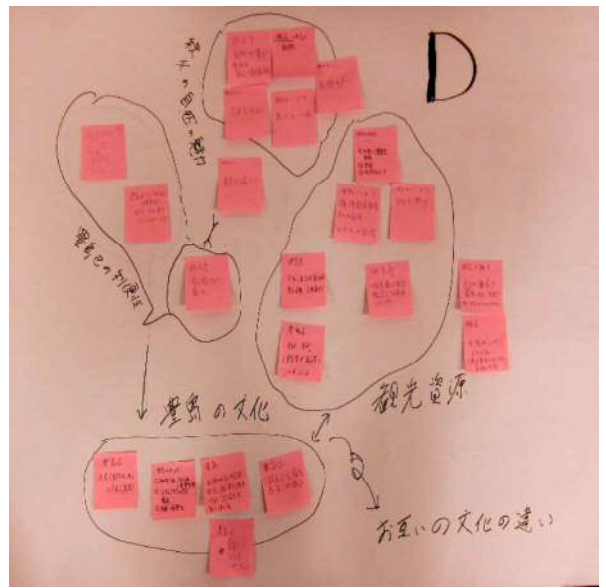
Cチーム 秩父市と豊島区の魅力



秩父市の魅力
<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かである。 ・1年中お祭りをやっている。 ・素晴らしい木工技術がある。 ・地域コミュニティが豊か。 ・控え目で素朴な人間性。 ・ワインやウイスキー等、食資源が豊かであるところ。

豊島区の魅力
<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設が多いところ。 ・飲食店が多い。 ・外国人が多い。 ・鉄道が多く交通の便が良い。 ・市民活動が盛んであるところ。

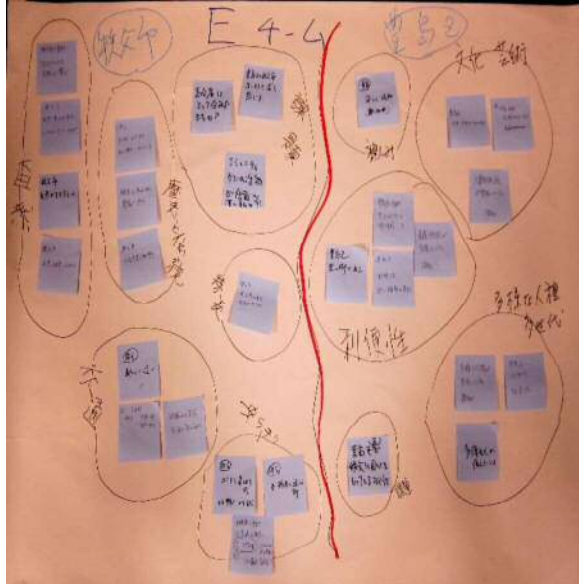
Dチーム 秩父市と豊島区の魅力



秩父市の魅力
<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない(地震にも強い)。 ・歴史的文化財がたくさんある。 ・おいしい水、豊かな樹木。 ・豊かな自然が一番の魅力。

豊島区の魅力
<ul style="list-style-type: none"> ・生活インフラが整っている。 ・利便性が高い。 ・歴史、文化がある。 ・外国人が多く、国際交流も可能。 ・先進的な取り組みが強い。

Eチーム 秩父市と豊島区の魅力



秩父市の魅力

- ・自然環境が豊か。
- ・歴史と伝統がある。
- ・晴天率が高い。
- ・災害が少ない。
- ・池袋に約80分で行ける。
- ・人情味と安らぎのあるまち。

豊島区の魅力

- ・文化、芸術、学問の施設が整っている。
- ・若者や外国人含め多様性がある。
- ・交通の利便性が良い。
- ・親しみのある場所である。

テーマ②：どうすれば姉妹都市としての交流が深まるか？

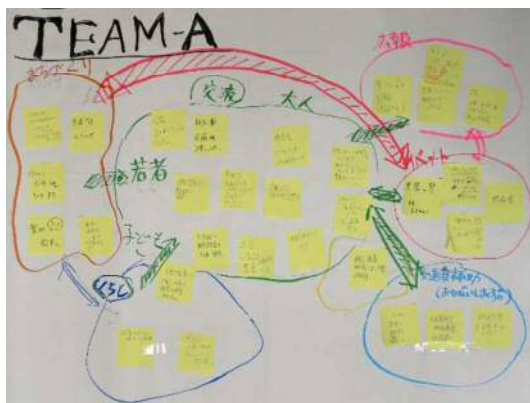
秩父市と豊島区は1983年10月から33年間『姉妹都市』として、絆を深めてきました。田植えや稲刈り体験教室、秩父市の「秩父夜祭」や豊島区の「ふくろ祭り」による交流や、豊島公会堂での「秩父ファンの集い」、過去には「豊島区・秩父市間リレーマラソン」を開催したこともありました。

このように、農業・文化・スポーツ等、様々な分野で、豊島区と秩父市は姉妹都市としての交流を深めてきました。そして、豊島区と秩父市が今後さらに交流を深めるためには、どのようなことに取り組んでいくべきか議論しました。



Aチームまとめ発表

- ・遠足等のコースに秩父市を入れて、子どもの頃からの交流を増やす。また、秩父の子ども達を豊島区に呼び込むことも大事である。
- ・キャンプファイヤーなどのシニア世代が参加したくなるイベントも企画する。
- ・多世代ではなく、あえて同世代に絞ったイベントを開催する。
- ・小学校の勉強を通し交流の機会を作る。
- ・豊島区と秩父市共催の祭り等を企画する。
- ・広報紙などにお互いの情報を発信するためのスペースをつくる。
- ・池袋⇄秩父間の交通費の補助制度をつくる（西武鉄道の協力も不可欠）。
- ・お互いの商店街同士の交流を活発化させ、若者向けのまちづくりを進める。
- ・アニメの聖地のPRを強める。
- ・秩父市の子育てしやすい環境、仕事の斡旋、住宅の提供などの取組みを強化する。



Bチームまとめ発表

- ・SNSを活用し、秩父・豊島のお互いのまちのイベントを共有できるように、PRおよび情報発信の工夫をする。
 - ・「農」と「食」のコラボ。→秩父市でとれた農作物を豊島区の飲食店で活用する。
 - ・秩父市で「畑体験」を行い、その作物をその場で調理し食べられる。
 - ・お互いの地域の「日常体験」ができるような企画をつくる。
 - ・高齢者から小さい子どもを含めた「ウォークラリー」など、お互いのタスキをつなぐようなイベントを行う。→秩父と豊島がつながる。
 - ・子どもの頃から交流できるような仕組みをつくる（山村留学など）。
 - ・秩父市にもっと大学や宿泊施設を作る。
- また、単なる宿泊ではなく豊島・秩父間でのホームステイなど。
- ・都会（豊島）、山（秩父）、海（未定）などの三地域連携を作り上げる。



Cチームまとめ発表

- ・子ども含め、若い人達に秩父を知ってもらう施策に取り組む。→サマースクール（空き地活用）、遠足（林間学校）で若者を秩父に呼び込もう！
- ・豊島区で子どもが産まれたら、秩父で作った木工のおもちゃをプレゼント。
- ・豊島区に「秩父ショップ」や「秩父自然食レストラン」をつくる。
- ・西武鉄道と連携し、将来的に池袋⇄秩父間を60分で行けるようにする。
- ・秩父市の広報力を強化する。
- ・空いている資源をどんどん活用する。
- ・小沢記念コンサートのように、豊島区と秩父市でお互いの良さを活用したイベントを協働で育てていく。



Dチームまとめ発表

- ・秩父のPR、認知活動を強化する。
- ・民間の協力は欠かせない（西武鉄道があったから、豊島区と秩父市は姉妹都市になった）。
- ・「何かイベントがあれば秩父でやる」くらい、開催場所を秩父一色にする。
- ・子どもが、秩父の施設やプレーパークに行くときは交通費を補助する。
- ・気軽に滞在できるような施設をつくり、そこを多世代交流の場にする。
- ・豊島区と秩父市で「交流クラブ」をつくる。
- ・豊島区民と秩父市民の誰もが参加できるイベントを開催する。
- ・豊島と秩父で、日常生活を体験できる取組みを行ってほしい。
→買い物やご近所付き合いが体験できる「1日豊島区民」「1日秩父市民」制度等。
- ・秩父市に立教のサテライト施設をつくる。
- ・豊島区民の記念樹を秩父市の公園等に植える。
- ・豊島区と秩父市の職員の交換制度を設ける。



Eチームまとめ発表

- ・サテライト施設、お祭り、住宅提供がメインになると考えている。

- ・年配の方が秩父に孫達を連れて行きたくなるような売り込み方をする。

→キーワードは「孫、子ども、家族」。

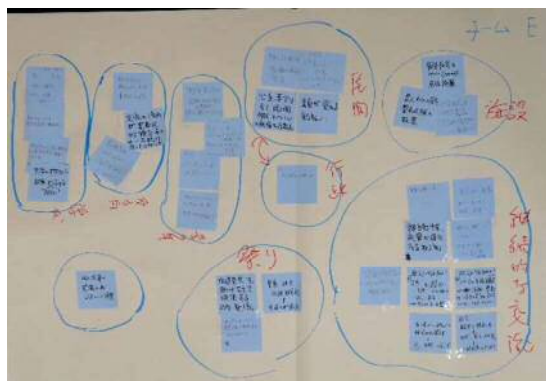
- ・豊島区は活動、アクションする場(ONの場)、秩父市は活力を蓄える場(OFFの場)というように両者の役割を明確にする。

- ・「観光」で勝負するのではなく、人、自然、祭りをテーマに売り込む。

→そのために往来しやすい環境を強めることが必要となる。

- ・豊島区のイベントに来た方には、秩父への優待券をプレゼントする。

- ・行政だけでなく、豊島区のシニア層が秩父を売り込む営業マンになるという意識をもって取り組むことが大切になる。



【グループワークのヒント！】 グループワーク2日目に向けて！

① 「掛け算」の視点

「弱み」を補強するというより、「強み」を掛け合わせてみる。

② 「誰が」の視点

「誰もが」幸せになるというより、「誰が」幸せになるか対象を絞ってみる。

③ 「自分ごと」の視点

「他人ごと」ではなく、「自分ごと」として自分なら何ができるかを考える。

上記の「3つの視点」が、まちづくりワークショップを進めていくうえで重要な視点になります。このような観点から、秩父市長や豊島区長に対し、まちづくりアイデアを提案していけるようグループワーク2日目を進めていきます。